

生体構造機能・病態解析学演習

[演習] 第1学年 前期 選択 2単位

《担当者名》高橋尚明 nao-takahashi@hoku-i-ryo-u.ac.jp

【概要】

日常生活活動やスポーツ活動において、筋による運動制御と関節包・靭帯による運動制御の解析を、健常生体あるいは運動器疾患を有する症例を対象として観察する実験研究手法を学習する。更に得られた解析結果を基にプレゼンテーションを作成し、採取したデータの解析結果を報告する際の工夫について理解を深める。

【学修目標】

一般目標：バイオメカニクス手法を用いて運動学的解析より得られた資料を基に、結果を報告する手法を身に着ける。

行動目標：

1. 運動学的解析をする方法を適切に選択できる。
2. 解析に必要なデータを正確に採取し解析できる。
3. 解析したデータを適切に報告資料にまとめることができる。
4. 解析の精度を高めるために考察をすることができる。
5. データ採取から解析、報告資料の作成までを指導することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 解析課題の検討と設定	一般人被検者を対象とする倫理的配慮を学ぶ	高橋尚明
2) 10	バイオメカニクス研究に必要な計測 演習	設定課題の解析に必要なデータ採取の方法の検討 データの精度を高めるために必要な要素の検討 適切な機器を選択しデータ採取を実施する	高橋尚明
11) 14	報告資料の作成	計測したデータを解析しプレゼンテーション資料を作成する。	高橋尚明
15	報告とディスカッション	運動器疾患を有する被検者の取り扱い、倫理的側面を理解し、総合的解析へつなげる手法を学ぶ	高橋尚明

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

毎回の演習の前は、紹介する文献や自身で検索した文献等の資料を活用して予習を行うこと（約120分）。

演習後は、資料を基に学習を深める次回演習準備に備えること（80分）。

【教科書】

特に指定せず、授業内容や課題内容に応じて必要な資料を推薦または指定する。

【参考書】

演習の中で適宜紹介する。

【学修の準備】

毎回の演習の前は、紹介する文献や自身で検索した文献等の資料を活用して予習を行うこと（約120分）。

演習後は、資料を基に学習を深める次回演習準備に備えること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

リハビリテーション領域において、学際的視点を活かしながら、先進的かつ独創的な研究を自律的に遂行するための高度な学識と研究能力を身につけているというリハビリテーション科学専攻博士後期課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

高橋尚明（理学療法士）